

2020 年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

研究開発実施報告書

（第 2 年次）

令和 3 年 3 月

静岡県立榛原高等学校

本校は、静岡県中部の沿岸部にある、人口約 45,000 人の牧之原市に所在し、2020 年に創立 120 周年を迎えた地域に根差した伝統ある進学校です。全 17 学級（内理数科 3 学級）からなり、夜間定時制を併設する高等学校です。全日制の生徒の多くは、卒業と同時に大学に進学し、この地区から巣立って行きます。地域としても人口流出や人口減少、地場産業の衰退や事業継承者不足を包含する産業構造の変容、外国人労働者の増加と現在日本の各地方都市が抱えている同様の諸問題に直面している地域です。

今年度は、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の委託の 2 年目を迎え、事業の発展期と捉え前年度の計画に見直しを図りスタートを切るはずでしたがすべての学校同様、本校も予想もしない多くの困難に見舞われることとなりました。

「主体的で対話的な深い学び」の中核に在るものを「自ら体験すること」とするならば今年は生徒たちや私たち教職員にとって実に厳しい年となりました。新型コロナウイルスの脅威によって海外はもちろん国内移動もままならず、社会的距離の確保やマスクの着用によって対話が大きな影響を受けました。ここ数年取り組んできたファシリテーション研修の実施に足踏みし、企業人講話等、外部から人材を招いての研修にも相当の配慮をもってあたらなくてはならなくなりました。課題解決型学習における課題の発見には、現状を理解するためのフィールドリサーチが欠かせません。困っている人に寄り添い、熱心に耳を傾けなければ解決の糸口を探ることはできません。新型コロナウイルスの脅威からやや解放されたと思われた時期に実施した企業訪問では、帰ってきた生徒たちの表情が明らかに普段とは異なっていました。引率した教員の「こんな時期だが、生徒を外に出すことは重要だ」という言葉が耳に残りました。

一方、「文明の利器」を駆使した様々な事業展開には目を見張る進歩がありました。海を越えた人々とのタイムラグのない双方向のコミュニケーションの実現や同時に多くの人々との画面を共有しての対話は、今後の新たな対話の在り方を模索させることとなるでしょう。

年度の後半から動き出した各種事業の中で、今年は 1 年生の積極的な参加が目立ちました。高校生活のスタート 1 年目に奪い取られた時間を取り戻すかのような勢いを感じました。地域の抱える問題に市民や企業関係者等と積極的に対話し、協働的に取り組む姿勢に今後の地域のリーダーとなる資質を感じています。

全ての生徒が在学中に海外を経験することが困難な時代になろうとしています。もちろん、現代は海外に出て行かなくてもグローバルを体感することができる時代になりましたが、自分の実体験として感じることに以上は確かなことはありません。今後、事態が収束し、新時代の中でのグローバルな体験をローカルの発展に繋がられるような生徒が多く育つことを期待したいと考えています。

2020 年度、多くの生徒が「総合的な探究の時間」や様々な研修機会を通して大変貴重な学びを得ることができました。このような状況の中、御協力いただいた関係の皆様、本当にありがとうございました。

目次

「巻頭言」	1
1 研究開発の概要	3
1-1 構想概要図(申請時)	6
1-2 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要	7
1-3 年間活動計画(変更後)	9
1-4 2020年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート(変更後)	9
1-5 研究開発組織(申請時)	11
2 研究開発構想	12
2-1 研究の目的	12
2-2 人材還流	12
2-3 グローバル人材の育成	12
2-4 研究手法	13
2-5 新型コロナウイルスの感染拡大による事業内容の変更	14
3 研究内容	15
3-1 総合的な探究の時間(地域創造探究Ⅰ・Ⅱ/榛高タイム)	15
3-2 実社会プログラム	16
3-3 その他の活動(類型毎の趣旨に応じた取組)	16
3-4 設定目標と成果	18
4 生徒の活動(主な活動)	19
4-1 総合的な探究の時間(地域創造探究Ⅰ・Ⅱ/榛高タイム)	19
4-2 実社会プログラム	20
4-3 地域リーダー育成プロジェクト	23
4-4 類型毎の趣旨に応じた取組	24
4-5 活動報告(生徒)	29
5 事例報告	46
5-1 1年生「総合的な探究の時間」	46
5-2 2年生「総合的な探究の時間」	50
5-3 グローカル事業報告会	55
6 研修報告	58
6-1 先進校視察報告(宮崎県立飯野高等学校、宮崎県立高鍋高等学校)	58
6-2 視察報告(札幌市立開成中等教育学校)	59
7 成果と課題	60
7-1 事業評価(校内評価)	60
7-2 事業評価(カリキュラム開発アドバイザー)	63
8 運営会議等	64
8-1 第1回運営指導委員会・コンソーシアム会議	64
8-2 第2回運営指導委員会・コンソーシアム会議	65
8-3 文部科学省視察	66
8-4 グローカル事業(カリキュラム開発アドバイザー) 協議報告	68
9 質問紙調査等結果(抜粋)	74

1 研究開発の概要

1 研究開発名

H A Fプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

2 研究開発の概要

(1) 目的・目標

ア 住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見・解決型学習の研究開発地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローバル・リーダーを育成する。

イ パートナーシップで目標を実現する生徒を育成するための研究開発国内外でのフィールドワークを通じて、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、協働して能動的に学び続けることができる人材を育成する。

ウ 質の高い教育を実現するための研究開発

産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。

(2) 概要

ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。

イ 課題解決型学習の実践により、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。

ウ 英語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実を図る。

エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。

オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究を進める。

3 2020年度の研究開発実施計画

(1) 総合的な探究の時間（榛高タイム／地域創造探究Ⅰ・Ⅱ）

グローバル・リーダー育成のための課題解決型学習に係る学習プログラム開発と、学校設定教科・科目設置のための研究を行う。（2019年度から実施、学年進行）

学年	目標
1	住み続けられるまちづくりを実現するための課題発見と課題解決型学習 地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。
2	パートナーシップで課題を解決するための課題発見と課題解決型学習 地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。
3	パートナーシップで課題を解決し目標を実現するための課題解決型学習 自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローバル・リーダーとして、地域や世界、社会貢献の在り方について考える。

(2) 課外活動

プロジェクトを成功に導く中核的役割を担う生徒を育成するため、実社会プログラム（課外活動）及び部活動（グローバル部）を設置する。また、地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市の事業）への参加・協力を行う。

活動	目標
実社会プログラム（希望者）	地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。 また、国内・海外で研修を実施し、より深い学びを行う。
部活動（グローバル部）	学校内外で進行する国際化に対応するため、部活動において中核的生徒を育成する。
地域リーダー育成プロジェクト	地域社会とのつながりを深める。 将来の地域社会を支える市民を育成する。

(3) 新教育課程施行に向けての教育課程研究

カリキュラム開発アドバイザーの協力を得て、以下のア～ウについての研究を行う。

先進校視察等の情報収集を行い、2021年度までに新しいカリキュラムの開発を行う。

ア 社会に開かれた学校の実現

コミュニティ・スクールの研究

イ 教科横断型の探究学習の実現

総合的な探究の時間の研究、学校設定教科・科目の研究

ウ 文理融合型カリキュラム

変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの研究

4 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
HAFプロジェクト グローバル・リーダー育成のための課題研究プログラムの開発	本校、静岡大学教育学部等 主なフィールドワーク先 【国内】 沖縄（名護市他） 連携企業事業所（牧之原他） 【海外】 アメリカ合衆国（シアトル、サンフランシスコ他） 台湾（屏東、高雄、台北） シンガポール共和国	校長 渡邊 昇司
社会に開かれた教育課程の開発 新教育課程施行に向けての教育課程研究	本校 牧之原市役所 静岡大学教育学部	校長 渡邊 昇司

5 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
堀川 知廣	静岡産業大学情報学部 学部長	学識経験者（ICT活用）
亀坂 安紀子	青山学院大学経営学部 教授	学識経験者（国際・金融経済）
菅野 文彦	静岡大学教育学部 教職センター長	学識経験者（教育）
渋江 かさね	静岡大学教育学部 准教授	学識経験者（NPO）
玉置 実	(財)静岡経済研究所 主席研究員	団体（地域経済）
白井 実	株式会社伊藤園 静岡相良工場長	企業（学校評議員）
渡辺 浩	TDK株式会社 国内人材開発統括部人事部課長	企業（人材開発）
【事務局】 静岡県教育委員会高校教育課、静岡県総合教育センター（教育行政）		

6 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	役職	機関の代表者名
静岡県立榛原高等学校	校長	渡邊 昇司
静岡県教育委員会	教育長	木苗 直秀
牧之原市	市長	杉本 基久雄
静岡県知事直轄組織	地域外交担当部長	長谷川 卓
静岡大学教育学部（静大附属小中学校）	学部長	江口 尚純
矢崎部品株式会社	管理統括部長	大石 斉
ふじのくに茶の都ミュージアム	館長	熊倉 功夫
島田掛川信用金庫	会長	市川 公
牧之原市民	ファシリテーター	原口 佐知子
牧之原市小中学校	牧之原市教育長	橋本 勝



Educational Policy

榛原高校は、グローバルな視野で次代を支えるリーダーを育成し、人材の還流を目指します。

榛原高等学校
教育指針
2019

（身につけてほしい2つの視点）

多様な研修と実践を通じて、2つの視点を育む基礎を身につけます。

LOCAL(地域を知る)

<榛高タイム(総合的な探究の時間)>

- ★ファシリテーション研修
 - ・対話を通して協働的に取り組む姿勢を養う
- ★地域社会探究活動
 - ・地元企業の方々による「企業人講話」
 - ・牧之原市長出前授業
- ★実社会プログラム
 - ・地元企業訪問

- ★海外修学旅行(2017～)
 - [理数科]シンガポール・マレーシア →2020～アメリカ(ロサンゼルス)
 - [普通科]広島・関西 →2020～マレーシア・シンガポール
- ★海外留学生交流
- ★イングリッシュキャンプ(2018～)
 - 海外の大学生を招き、コミュニケーション力の向上を図る
- ★英語(グローバル)部

GLOBAL(視野を広げる)

（実現に向けた具体的な取り組み）

先進的な取り組みと独自の進路指導により、ひとりひとりの可能性を広げていきます。

文部科学省委託事業

- ★海外・国内研修
 - ・アメリカ<シアトル、サンフランシスコ>(8/22～27)
 - ・台湾(12/23～27) ・沖縄(8/26～29)
 - 目的に沿った研修地の選定、事前学習をベースとした現地企業訪問や学生交流、成果報告会開催
- ★高大連携事業(県内大学との連携を予定)
- ★校内異文化交流
- ★カリキュラム開発・研究

理数科サイエンスプログラム

- ★課題研究
 - ・1年次：課題解決のためのファシリテーション講座
 - ・2年次：課題研究発表会→1グループ県大会へ
- ★大学等での研修・体験
 - ・1年次：科学探究講座、科学研修、東京大学訪問
 - ・2年次：静岡大学 工/農学部での実験講座、情報科学講座

「コアスクール」事業

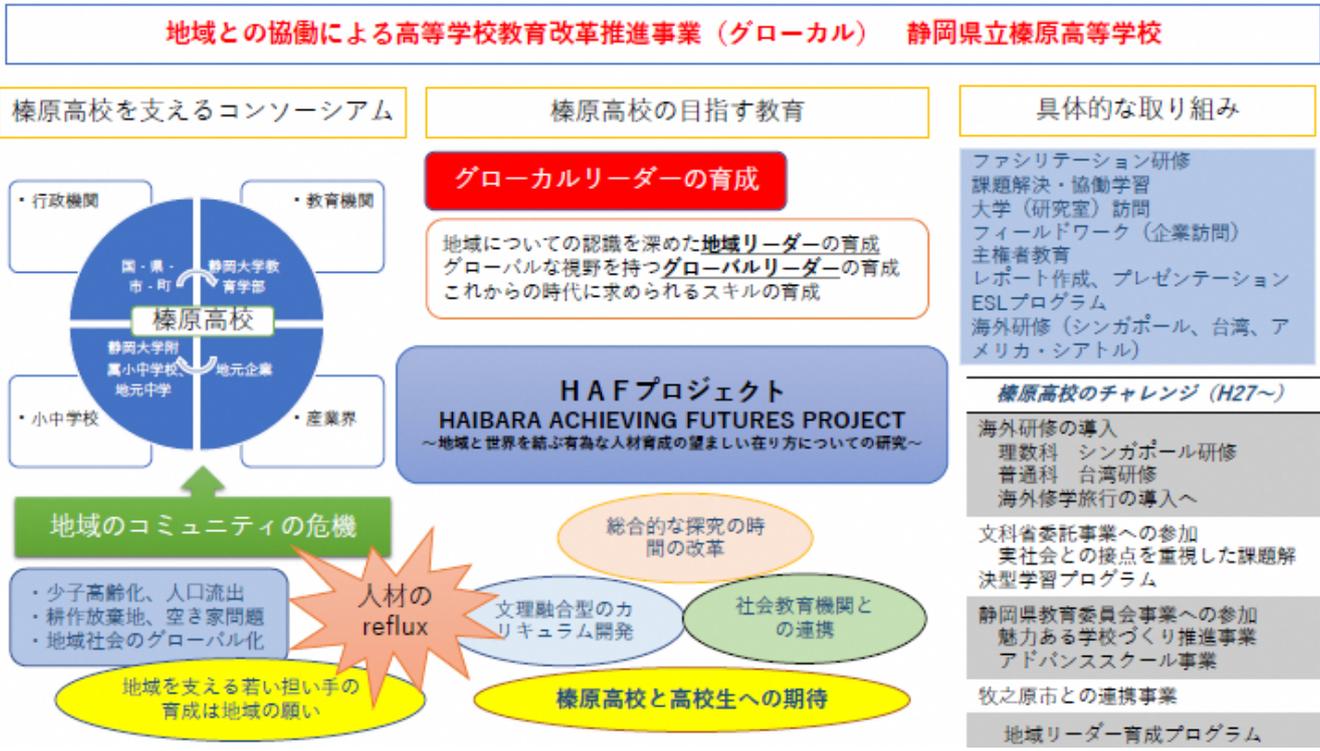
- ★地域リーダー育成プロジェクト
 - ⇒高校生が地域への愛着を深め、地域の抱える課題解決に貢献する
 - ・ファシリテーションスキルアップ講座
 - ・地元企業や事業所の課題解決に取り組むアジェンダプログラム
- ★授業改善・授業力向上
 - ・ICT機器の活用、校外研修、先進校視察

進路実現に向けた学び

- ★英語4技能などの新テスト対応
- ★キャリアデザイン講演会
- ★保護者進路勉強会
- ★ポートフォリオによる振り返り

Society5.0に向けた新しい教育活動に取り組んでいきます。

裏面では「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」についてご紹介しています。



Haibara H.S.

(Society5.0に向けた新しい教育活動に取り組んでいます)

LOCAL (地域を知る)

<榛高タイム(総合的な探究の時間)>

- ★ファシリテーション研修
 - 対話を通して協働的に取り組む姿勢を養う
- ★地域社会探究活動
 - 地元企業の方々による「企業人講話」
 - 牧之原市長出前授業
- ★実社会プログラム
 - 地元企業訪問

GLOBAL (視野を広げる)

- ★海外修学旅行(2017～)
 - [理数科]シンガポール・マレーシア →2020～アメリカ(ロサンゼルス)
 - [普通科]広島・関西 →2020～マレーシア・シンガポール
- ★海外留学生交流
- ★イングリッシュキャンプ(2018～)
 - 海外の大学生を招き、コミュニケーション力の向上を図る
- ★英語(グローバル)部

文部科学省委託事業

- ★海外・国内研修
 - ・アメリカ<シアトル、サンフランシスコ>(8/22～27)
 - ・台湾(12/23～27) ・沖縄(8/26～29)
 目的に沿った研修地の選定、事前学習をベースとした現地企業訪問や学生交流、成果報告会開催
- ★高大連携事業(県内大学との連携を予定)
- ★校内異文化交流
- ★カリキュラム開発・研究

「コアスクール」事業

- ★地域リーダー育成プロジェクト
 - ⇒高校生が地域への愛着を深め、地域の抱える課題解決に貢献する
 - ・ファシリテーションスキルアップ講座
 - ・地元企業や事業所の課題解決に取り組むアジェンダプログラム
- ★授業改善・授業力向上
 - ・ICT機器の活用、校外研修、先進校視察

理数科サイエンスプログラム

- ★課題研究
 - ・1年次:課題解決のためのファシリテーション講座
 - ・2年次:課題研究発表会→1グループ県大会へ
- ★大学等での研修・体験
 - ・1年次:科学探究講座、科学研修、東京大学訪問
 - ・2年次:静岡大学 工/農学部での実験講座、情報科学講座

榛原高校は、グローバルな視野で次代を支えるリーダーを育成し、人材の還流を目指します。

進路実現に向けた学び

- ・英語4技能などの新テスト対応
- ・キャリアデザイン講演会
- ・保護者進路勉強会
- ・ポートフォリオによる振り返り

・文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)R1～

・静岡県魅力ある学校づくり「コアスクール」(学力向上)H30～

校訓「至誠真剣」

榛原高校は2020年に創立120周年を迎えます

指定期間	ふりがな	しずおかけんりつはいばら こうとうがっこう				②所在都道府 県	静岡県
2019～2021	①学校名	静岡県立榛原高等学校					
③対象学科 名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1年生 200人 2年生 205人 3年生 197人 理数科 1年生 40人 2年生 40人 3年生 32人 合計 714人	
普通科	200	28	20	0	248		
理数科	40	40	32	0	112		
⑥研究開発 構想名	HAFプロジェクト (HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT) ～地域と世界を結ぶ有為なグローバル人材育成の望ましい在り方についての研究～						
⑦研究開発 の概要	<p>ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。</p> <p>イ 課題解決型学習の実践により、協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。</p> <p>ウ 外国語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実。</p> <p>エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。</p> <p>オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究</p>						
⑧ 研究 開発 の 内容 等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローバル・リーダーの育成 ・これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができる人材の育成 ・産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校が立地する牧之原市では、人口減少が続き、2040年には、2015年比25%減、2060年には現在からおおよそ44%減少(27,500人)することが予測されている。また、同時に高齢化が進んでおり、このままでは地域の経済・社会の縮小均衡は避けることができない状況にある。逆に、牧之原市内の外国人の人口は、2016年1月末は、593人であったのに対し、2019年1月末には、1,068人とほぼ2倍となっている。外国人労働者の受入が積極的になれば、市内の外国人の人口は今後も増加傾向となる。地域内での外国人との文化交流や異文化理解の方策を考えていく必要がある。</p> <p>この牧之原市周辺地域には茶業に加え、自動車産業をはじめとして、多種多様な製造業が発展している。加えて、県内唯一の国際空港である富士山静岡空港を有し、潜在的な成長力は十分に有している。</p> <p>さらに、オリザニン(ビタミン)を発見した地域の偉人である鈴木梅太郎博士(牧之原市出身)は、本校の前身である東遠義塾に学び、地域のみならず世界の医療科学の発展に貢献しており、世界を俯瞰して捉えることのできるグローバル人材の育成についても本校の役割は大きい。</p> <p>世界から日本を俯瞰し、地域の発展につながるキャリア教育は本校の責務であり、地域全体の願いでもある。行政機関(国、県、周辺市町)、地元企業、地元小中学校に加え、静岡大学教育学部、同附属小中学校と連携し、地域と世界を結ぶグローバル・リーダーを地域とともに育成するための事業を推進したいと考えている。</p> <p>なお、本校は近年以下の実践研究を文科省及び地元自治体の協力のもとに行ってきた。平成28・29年度、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」、平成27年度から現在まで「地域リーダー育成プロジェクト」(牧之原市)、本年度からは、静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」を活用。</p>					

<p>⑧-2 具体的内容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画（年次進行）</p> <p>○学校設定教科「地域創造探究（仮）」（総合的な学習（探究）の時間）を中心に、全ての教科（科目）と連携して実施する。</p> <p>1年次 自己理解を深めた上で、身近な社会を知り、世界とのつながりを考える。 地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業等に勤務する企業人等による講話、金融経済講座 ・フィールドワーク（地元企業の事業所訪問）、講演会（牧之原市長） ・ファシリテーション研修 ・日経ストックリーグコンテストへの応募・参加（理数科・希望者） ・定時制課程の外国籍生徒と英語部の定期的な交流による文化交流や外国語によるコミュニケーション力の向上（対象を英語部・希望者として継続実施） ・ESLプログラム（イングリッシュキャンプなど）への参加（希望者） ・海外（台湾などアジア方面）研修（希望者） ・行政機関等の主催する地域連携事業への参加（希望者） ・学習成果報告会（模擬請願）によるプレゼンテーション <p>2年次 幅広い社会を知り、自分の未来と社会をつなげる。 地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学（研究室）訪問などのフィールドワーク ・日本とアジアのつながりを探究する。 ・地域とアジアの繋がりについて地場産業（茶、自動車産業）を通して考える。 ・海外（アメリカ、オーストラリア）研修（希望者） ・国内（沖縄）研修（希望者） ・シンガポール・マレーシアとのつながりを考える。（修学旅行：2020年実施） ・学習成果報告会（高校生の地方創生研究発表会） <p>3年次 自己の在り方、生き方を考える（キャリア形成・確立へ）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献の在り方について考える。 ・地域課題、国際問題について、2年間の学習を振り返る。 ・3年間の学びをどのように活かすか考える。 ・大学（研究室）訪問などのフィールドワーク（希望者） ・進路目標の実現について考える。 <p>○新教育課程施行に向けての教育課程研究 「社会に開かれた学校（教育課程）」の実現と、変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの研究開発</p> <p>○地域社会と学校の在り方に関する研究 地域社会の変容（少子高齢化、グローバル化）に伴い、持続可能な地域社会の実現に向け、社会教育機関等と連携した教育活動の研究・実践</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 外部委員、校内推進委員によるカリキュラム開発推進委員会を整備する 外部推進委員会 静岡大学教育学部、牧之原市地域振興課、海外交流アドバイザー、教育委員会高校教育課担当 校内推進委員会 校長、副校長、教頭、事務長、理数科主任、教務主任、進路指導主任、研修主任、地域連携推進監、各学年推進担当者、部活動顧問等 ※地域連携推進監（2019年度設置）は、大学、行政機関等との連絡調整行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 学校設定教科「地域創造探究」による総合的な探究の時間の代替</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>静岡大学教育学部、附属小中学校との連携協定締結（3月を予定）に向けて準備中 牧之原市との地域連携事業に関する協定の見直し（2015年協定締結済み）</p>

令和2年度HAFプロジェクト活動計画

学年	全生徒対象												希望者対象											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1 学年	【総合】 課題発見・解決型学習（地域）																							
				ファシリテーション研修			市長出前講座			総合的な探究の日			成果発表会						北海道研修					
				企業人講話			企業訪問			南九州研修			成果発表会											
	日経STOCKリーグレポートコンテスト																							
2 学年	【総合】 課題発見・解決型探究学習／国内修学旅行																							
							キャリア探究						成果発表会											
全学年 (課外)	イングリッシュ・キャンプ																							
	定時制課程生徒との交流（グローバル部）																							
	中小企業同友会との交流（グローバル部）																							
												地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）												

1-4 2020 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート（変更後）

【別紙様式 5】

ふりがな	しずおかけんりつはいばらこうとうがっこう	指定期間	2019～ 2021
学校名	静岡県立榛原高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標）						
英語での日常会話やプレゼンテーションができる力（実用英語検定2級以上）を持っている生徒の人数						単位：人
a	本事業対象生徒：		35	111		40
	本事業対象生徒以外：		24	45		
目標設定の考え方：						
（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標）						
卒業後、地域に留まる、または将来戻ると回答する生徒の割合						単位：%
b	本事業対象生徒：		51	47		25
	本事業対象生徒以外：		-	19	49	
目標設定の考え方：						
（その他本構想における取組の達成目標）						
海外研修、E S L プログラムへの参加者数						単位：人
c	本事業対象生徒：		76	57		100
	本事業対象生徒以外：		36	70	0	
目標設定の考え方：						

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

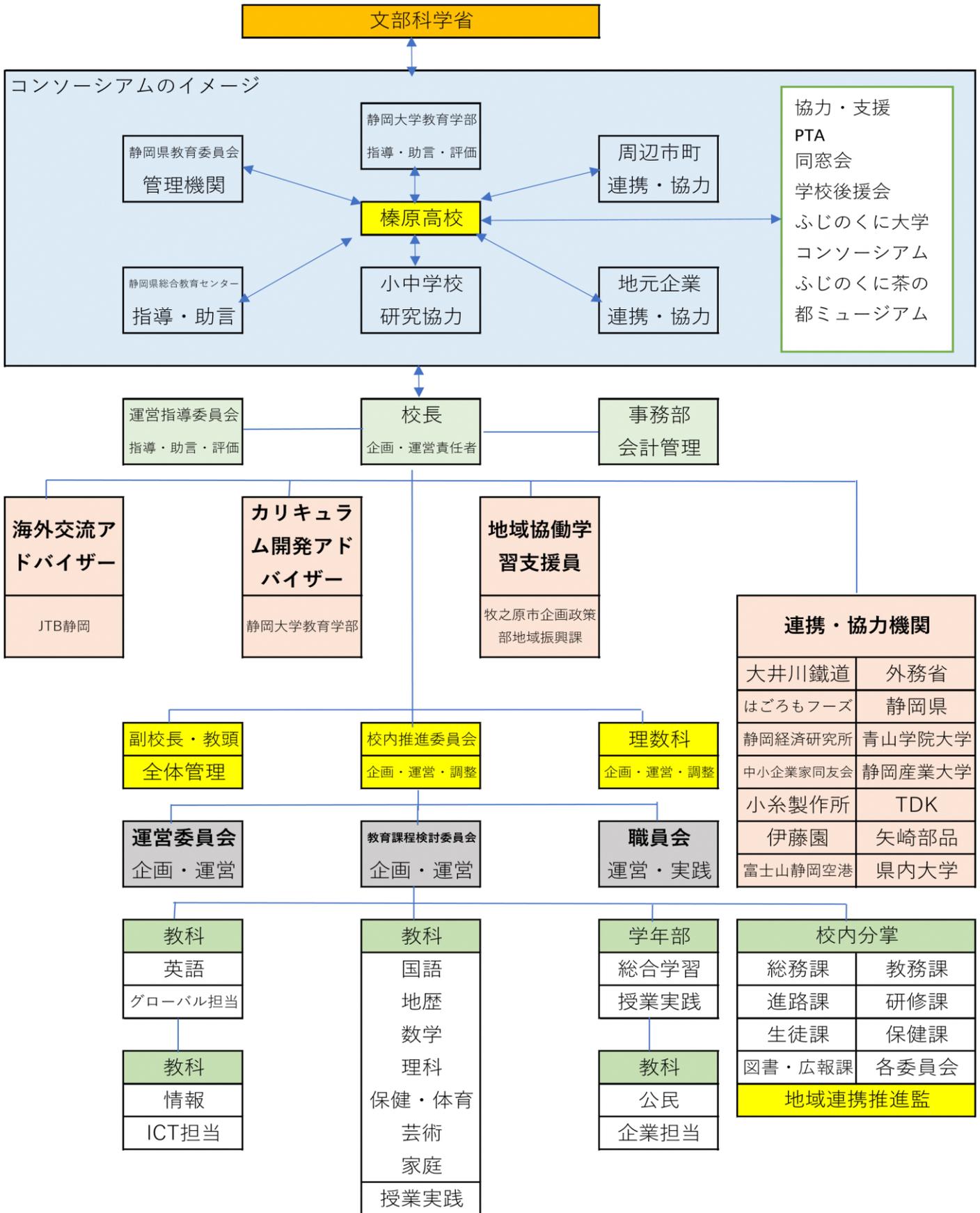
2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						
a	地域連携事業への参加生徒数					単位：人
	53	55	90	171		80
目標設定の考え方：						
（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						
b	学習成果報告会の実施回数					単位：回
	5	7	7	9		10
目標設定の考え方：						
（その他本構想における取組の具体的指標）						
c	地域企業や自治体へのフィールドワークへの参加人数					単位：人
	41	126	210	94		200
目標設定の考え方：						
（その他本構想における取組の具体的指標）						
d	オンラインを活用した学校間交流・研修会の実施回数					単位：回
				10		10
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標）						
a	コンソーシアム機関との研究協議回数					単位：回
		0	2	2		2
目標設定の考え方：						
（その他本構想における取組の具体的指標）						
d	地域企業、地元自治体の人的資源の活用人数					単位：人
		29	31	43		90
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）			692	656	0
本事業対象生徒数			364	656	
本事業対象外生徒数			346		



2 研究開発構想

2-1 研究の目的

本校では、文部科学省及び地元自治体の協力の下、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」（平成 28・29 年度）、「地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市）」（平成 27 年度～現在）静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」（平成 30 年度～現在）等の地域連携事業を実践してきた。

これらの事業を通じ、高校生は地域の大人が考えている以上に地域社会に疎いことが明らかになってきた。そこで、地域社会（学校、地元企業、行政機関、牧之原市民）が協力し、地元の高校生が、大学等を卒業した後、地域に戻ってくる人材の還流を実現するためのカリキュラム開発を行うことを目指すこととした。

また、急速に進む国際化は、従来からの形である日本人が外国に赴くという国際化に加え外国人が来日し、地域社会に定着するという新しい段階に入りつつある。地域社会のグローバル化に対応する人材育成についても、外国籍や外国にルーツを持つ生徒が在籍している定時制課程を有する本校の役割と考えられる。このことを踏まえ、グローバルに活躍する人材を育成し、質の高い教育を実現するための実践研究を目標とした。



2-2 人材還流

本校の立地する牧之原市は、少子高齢化と人口減少、地場産業である茶業の衰退など多くの課題を抱えている一方で、充実した交通インフラ等を背景に自動車産業を中心に様々な事業所の生産拠点が集積しており経済的な面からは他の人口減少地域よりも恵まれた環境にあるといえる。

このことから、卒業した生徒が将来地元に戻り、地域社会を支えるリーダーとなるための地域リーダーを育成するカリキュラム開発を行うこととした。



【地域社会の現状】	【地域社会の強み】
<ul style="list-style-type: none">・少子高齢化と人口減少・地場産業の茶業の衰退、海水浴を中心とした観光客の減少・アジアを中心とした外国人労働者の増加	<ul style="list-style-type: none">・自動車産業を中心とした多様な産業の製造拠点が存在・国際空港、高速道路網など充実した交通インフラ・地域住民、行政機関、地元企業の教育に対する協力体制

2-3 グローバル人材の育成

牧之原市内の外国人の人口は、2016 年 1 月末は、593 人であったのに対し、2019 年 1 月末には、1,068 人とほぼ 2 倍となっている。今後もこの傾向が続くことが予想され、並置されている定時制課程には、外国籍または外国にルーツをもつ生徒が増加している。同様に、全日制課程においても外国にルーツを持つ生徒や外国語が堪能な生徒が入学するようになってきている。

また、日本全体の人口減少するなかで、企業活動のグローバル化は避けて通ることができない。実際に本校の卒業生が海外勤務することも決して珍しいことではなく、海外研修で訪問する台湾の董事長（現地法人の社長にあたる）は本校の卒業生である。民族（人種）が異なる人とともに事業の目標を達成するために力を合わせて努力することが当たり前の時代はすぐそこまでやっているといても過言ではない。このことから、グローバル化する社会に対応した質の高い教育を実現するための研究開発を行うこととした。



2-4 研究手法

(1) 仮説

コンソーシアム（行政機関、地元企業、地域住民）と協働し、すべての生徒を対象とした数多くの学習プログラムの提供により、実社会とのつながりを理解し、世界と地域社会とのかかわりを理解し、国際的感覚を持ち地域社会を支える人材が育成される。加えて、これらの研究を通じて新しい時代に対応したカリキュラムが開発を行うことができると考えた。

(2) プログラム内容

研究の目標を達成するため、以下のア～ウの取組を行い、カリキュラムの開発をすることとした。

ア 総合的な探究の時間

1年次は、牧之原市長、牧之原市の市民ファシリテーター、地元企業関係者による企業人講話、フィールドワークを通じて、地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える授業を企画した。

2年次以降は、海外修学旅行を踏まえ、地域と世界とのつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。また、3年次は自己の生き方・在り方について考えるとともに、グローバル・リーダーとして、地域や世界、社会貢献の在り方について考えるための学習プログラムを開発する予定である。

イ 実社会プログラム

教員の研修・育成に加え、プロジェクトを牽引するリーダー的存在となる生徒（のグループ）育成のため、平成28、29年度に研究を行った文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム実践研究」の手法を活用し、理数科1年生を中心に希望者対象の課外活動を企画した。

ウ 類型ごとの趣旨に応じた取組

1年生は台湾研修、2年生はアメリカ研修、沖縄研修の国内外研修を企画した。

また、従来の英語部をグローバル部として改組し、実社会プログラムと同様プロジェクトの牽引役とした。さらに、ESDプログラム（ESLプログラム）として、イングリッシュ・キャンプを企画した。

(3) 事業評価

評価項目は次の3つとした。「地域連携事業の推進」、「外国語でのコミュニケーション能力の向上」、「学習成果の発信」。評価方法は、参加者人数、実施回数、生徒・保護者への質問紙調査及び英語検定の結果とした。

事業評価は、運営指導委員会（年2回開催）及びコンソーシアム委員による外部評価とした。

事業改善については、運営指導委員会の指導・助言の下、PDCAサイクルにて行う。

(4) その他

校長を中心とした校内推進委員会（HAF会議）において、事業を企画・運営するとともに静岡県教育委員会と連携して随時事業内容の見直しを行う。校内推進委員は、副校長、教頭、理数科長、教務課長、進路課長、研修課長、地域連携推進監、実務担当及び事務担当とする。

地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）については、地域連携推進監を中心に連携を行い、生徒の積極的参加を促す。

教員の育成のため、県内外の先進校視察を行い、事業実践の推進役となるよう研修を行うとともに、職員研修会等での共有を図る。

2-5 新型コロナウイルスの感染拡大による事業内容の変更

(1) 変更事項

ア 変更前

沖縄研修（8月末）、シアトル・サンフランシスコ研修（8月末）、台湾研修（12月）を実施する。総合的な探究の時間において、海外修学旅行を中心とした探究学習を実施し、学校設定教科・科目化する。

イ 変更後

沖縄研修を中止し、目的地を島根県・鳥取県におけるフィールドリサーチとする。

シアトル・サンフランシスコ研修の生徒募集を中止し、北海道（旭川市、札幌市）におけるフィールドリサーチを実施する。

台湾研修を中止し、鹿児島県・宮崎県におけるフィールドリサーチとする。

総合的な探究の時間において、国内修学旅行を中心とした探究学習を実施し、学校設定教科・科目化するための研究を行う。

国内外のフィールドリサーチの補完的措置として、国内外の学校等とテレビ会議システムを活用した交流を実施する。

(2) 変更の理由

新型コロナウイルスの感染症対策に伴う、出入国制限が解除されず、海外研修及び海外修学旅行が実施できないため。また、本県の基準により、沖縄県は移動回避が示されており、研修に係る生徒募集が困難であるため。

(3) 変更が事業計画に及ぼす影響及び効果

グローバル事業の中心事業である海外フィールドリサーチが実施できないため、大きな影響を受けている。一方で、フィールドワーク先を国内の比較的感染が落ち着いている地域に変更し、機会を確保したことにより、従来よりも地域探究活動が充実することが予想される。また、講演会や交流会を、テレビ会議システムを活用により代替することで、学びの機会を保証するとともに、生徒・職員のICT教育のスキルが向上することが期待できる。

3 研究内容

3-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム）

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による臨時休業（5月末まで）に加え、海外への渡航制限が制限されたため、時期と内容を当初計画から大幅に変更して実施することになった。

【年間指導計画と実施内容（1年生）】

実施項目	時期	内容
ファシリテーション ・グラフィック研修	9月	ファシリテーション研修 牧之原市市民ファシリテーターの協力によるファシリテーション及びグラフィック講習。
牧之原市長講話	9月	牧之原市長による講演 牧之原市の現状と課題及び将来の展望について学ぶ。
企業人講話	9月	地元企業関係者による講演 牧之原市周辺に事業所が立地する意味や、企業の経営戦略等について学ぶ。
地域課題探究	9～3月	牧之原市周辺地域の活性化のための意見書の作成 市長講話、企業人講話、企業訪問（希望者）等で学んだことを踏まえ、ファシリテーションの手法を活かして、グループでテーマを設定、課題発見・解決型学習を行う。 学習成果は、グラフィック研修で学んだことを利用し、各クラス内でプレゼンテーションを行う。また、優秀なグループは学年発表及び牧之原市役所において発表を行う。 なお、2021年全国高等学校オンライン発表会、南九州（鹿児島、宮崎）研修に参加した生徒（希望者）が、その成果を学年全体に普及させる。

【年間指導計画と実施内容（2年生）】

実施項目	時期	内容
グローバル課題探究	5～1月	課題探究学習 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、フィールドワーク先を国内に変更し、課題発見と課題解決型学習を展開。 * 修学旅行先 当初予定 マレーシア・シンガポール 変更先 国内（北九州、関西方面）
キャリア探究	5～3月	自己の生き方・あり方に関する探究 キャリア形成に係る講演会、フィールドワーク等を通じた各自のキャリア探究。

3-2 実社会プログラム

【年間指導計画と実施内容 1・2年希望者（1年生39人、2年生3人）】

実施項目	時期	内容
参加者募集	5月	1・2年生を対象に参加者募集 日経STOCKリーグレポートコンテストへの参加。
企業訪問	11月	牧之原市及び周辺市町、静岡市の事業所訪問（2社うち1社はリモートにて実施） 各企業の経営戦略を学ぶとともに、製造現場を見学。
金融経済教室	11月	外部講師による金融経済教室の実施
課題探究	9～3月	企業訪問、金融経済教室を踏まえ、地域経済活性化のためのレポート作成及び発表を行う。

3-3 その他の活動（類型毎の趣旨に応じた取組）

(1) 国内外研修

研修先 (対象・人数)	時期	内容
南九州 (1年生・32人)	12月	フィールドリサーチ ふじのくに茶の都ミュージアム（静岡県島田市）、南九州市（知覧茶） 宮崎市内フィールドリサーチ 課題研究 グローバルアカデミー岡本尚也所長講話 平和学習 知覧特攻平和会館 学校交流 宮崎県立宮崎大宮高校 自然体験 指宿市、高千穂町 学習成果は、校内研修報告会に加え、2021年全国高等学校オンライン発表会等において発表を行い、1学年生徒と共有する。
北海道 (1年生・25人)	3月 (中止) 次年度へ 延期	フィールドリサーチ 旭川市内研修、国立アイヌ民族博物館（ウポポイ） 課題研究 旭川大学学長講話（地域経済を担う人材の育成について） 旭川大学講話（旭山動物園飼育員について） 学校交流 旭川明成高等学校、札幌市立開成中等教育学校 学習成果は、校内研修報告会に加え、グローバル事業報告会等において発表を行い、1学年生徒と共有する。

<p>島根・鳥取 (2年生・10人)</p>	<p>12月</p>	<p>フィールドリサーチ 雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム 島根大学中村准教授講演 課題研究 鳥取環境大学吉永教授講演 歴史・文化研究 石見銀山、出雲大社、境港市うみの暮らし史料館、鳥取砂丘 学習成果は、校内研修報告会に加え、2021年全国高等学校オンライン発表会等において発表を行い、2学年生徒と共有する。</p>
----------------------------	------------	---

(2) 研究会・発表会への参加

研修先（対象）	時期	内容
<p>台湾高校生とのオンライン交流会 (1年生 10人 2年生 10人)</p>	<p>1月</p>	<p>SDGsをテーマに、台湾の高校生（台中市立台中第一高級中学校）と、英語によるプレゼンテーションと意見交換会を実施。 榛原高校は、SDGs目標4、11、17をテーマに発表を実施。</p>
<p>2021年全国高等学校オンライン発表会 (1年生 6人 2年生 5人)</p>	<p>1月</p>	<p>1年生は、「安全な水を～世界遺産を守ろう～」(日本語)をテーマとし、2年生は「Attractive Town Development」(英語)をテーマに課題解決型学習を、それぞれのフィールドワーク先での研修内容を踏まえた発表を行った。</p>
<p>静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション (2年生 10人)</p>	<p>2月</p>	<p>2年生の代表2チームが、「魅力的で持続可能な学校と地域をつくる」取り組みについて、「住みやすく、多くの人が集まる地域作りのために私たちができること」について、島根・鳥取研修の成果を踏まえ、英語で研究発表を実施した。</p>
<p>榛原高校グローバル事業発表会 (1・2年生代表 90人)</p>	<p>3月 (予定)</p>	<p>榛原高校における研究開発を、コンソーシアム代表者、運営指導委員、関係中学校等に報告する発表会。 1・2年生の統合的な探究の時間における探究学習の成果、グローバル部の活動報告等を行う。 英語による発表と日本語による発表に加え、ポスターセッションを実施する。</p>

*各発表は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、リモート実施または中止となる場合がある。

(3) ESD (ESL) 教育 (イングリッシュ・キャンプ)

研修先 (対象・参加者)	時期	内容
榛原高校校内 (全校生徒・41人)	8月	新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、予定していた講師が来日できなかったため、静岡県内のALT10人により実施。

(4) その他の活動

学校交流・交流校	時期	内容
ハロン大学 (ヴェトナム共和国)	10～3月	ハロン大学日本語学科学生との交流。 遠隔会議システムを活用し、生徒会の生徒と大学生が日本語で交流。
宮崎県立宮崎大宮高等学校 (WWL指定校)	12月	11月に学校間連携協定を締結。 南九州研修参加者 (1年生32人) が、宮崎大宮高等学校を訪問し学校交流を実施、両校生徒で宮崎市内の再発見をテーマに協働でポスターを制作した。
市立札幌開成中等教育学校 (IB指定校)	2月～3月	学校交流。 遠隔会議システムを利用した交流を実施。また、北海道研修参加者 (1年生25人) が、市立開成中等教育学校の1年生と学校交流を実施する予定。 3月に学校間連携協定を締結。
旭川明成高等学校	3月	学校交流。 北海道研修参加者 (25人) が、北海道旭川市で学校交流 (フィールドを実施する予定)。

3-4 設定目標と成果

設定目標	進捗状況 (目標)	成果 (延べ人数)	評価
外国語でのコミュニケーション能力の向上	英語検定2級以上合格者 (100人) ESLプログラム参加者 (40人) 海外希望研修 (米国) 参加者 (10人) 海外研修 (その他) 参加者 (40人)	合格者 111人 参加者 41人 参加者 0人 参加者 0人	目標を上回る成果を得た。海外研修は、新型コロナウイルスにより中止。
地域連携事業の推進	実社会プログラムへの参加者 (55人) 企業訪問参加者 (60人) 地域リーダー育成事業への参加者 (80人)	参加者 102人 参加者 61人 参加者 153人	目標を上回る成果を得た。
学習成果の発信	校内での成果発表の機会 (4回) 校外での成果発表の機会 (3回)	3回 3回	年度内に達成する予定

2021年1月末現在

4 生徒の活動（主な活動）

4-1 総合的な探究の時間（地域創造探究Ⅰ・Ⅱ／榛高タイム）

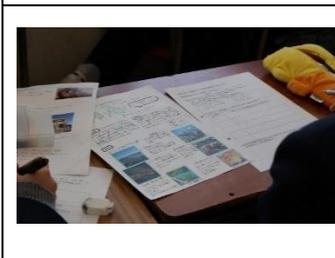
(1) 市長出前授業（1年生）

	<p>【令和2年10月8日（木）実施 講堂】</p> <p>1年生を対象に、牧之原市長杉本基久雄氏を招聘し、牧之原市の地場産業、地域経済の現状、抱える課題についての講話を行った。</p>
	<p>生徒たちは、市長からの問題提起を踏まえ、各グループで課題探究学習を行い、3学期に学習成果を改めて市長に報告する予定。</p> <p>本年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため、生徒・市長ともマスクを着用するなど、感染防止対策を行ったうえで講演を実施しました。</p>

(2) 企業人講話（1年生）

	<p>【令和2年9月8日（火）実施 各教室】</p> <p>榛高タイムの時間に企業人講話が行われました。市民ファシリテーターの方々の進行のもと、地元企業の皆様に講話していただき、会社や地域社会、企業人のキャリアについてなど学び、これからの自分自身の進路意識の向上を図りました。</p>
	<p>生徒たちは講師の方々の話をしっかり聞きながら、疑問に思ったことなどは、振り返りで班員と話し合い、講師の方々に質問を投げかけていました。</p>
	<p>御協力いただいたのは、矢崎部品ものづくりセンター様、伊藤園静岡相良工場様、島田掛川信用金庫様、TDK静岡工場様、富士山静岡空港様です。なお、TDKの講師の方は、千葉県の本社からリモートで御講演いただきました。</p> <p>本年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため、講師・生徒ともにマスクを着用するなど感染防止対策を万全にしたうえで講演を実施しました。</p>

(3) 研修旅行振り返り（2年生）

	<p>【令和3年1月19日（木）実施 各教室】</p> <p>榛高タイムの時間に、普通科2年の生徒たちが各クラスで修学旅行の振り返りを実施。前半はグループごとに分かれ研修旅行のレポートを一人一人発表し、情報を共有し、後半は、前半とは異なるグループでレポートを回覧して感想などをワークシートに綴り、研修旅行での学びを確認した。</p>
	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、シンガポール・マレーシア研修は中止になってしまい、予定していた研修内容が大きく変更になってしまったが、長崎、広島、岡山でのフィールドワークを実施した。</p>

4-2 実社会プログラム

(1) 学習の概要

ア 活動目標と主な活動

地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。また、国内／海外でフィールドワーク等を実施し、より深い学びを行う。

主な内容は、日経STOCKリーグレポートコンテストへの参加、フィールドワーク（企業の事業所訪問などを通じた課題探究型学習）。完成したレポートを活用して、プレゼンテーションを実施する。

イ 参加生徒

1・2年生 42人（3～5人グループ） 11チーム応募

現代社会の授業等を通じて参加者を募り実施。

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、希望する生徒が少なかった。

ウ レポートタイトル・作成生徒氏名一覧（11作品）

- ・『A I 万能論～第四次 AI ブームを正しく迎えるために～』（入選）
樽林 秀 紅林 未来 樽林 優 鈴木 沙藍
- ・『Water Of Our Life ～私たちは豊かな水資源をどのように使うべきなのか～』（入選）
河本 八洋 伊藤 幸大 遠藤 由菜 大澤 実彩希
- ・『エネルギー寿命 The technology of solar power generation has almost reached a breakthrough』
植田 玲菜 下村 純平 高塚 陽向 大須賀 花
- ・『お茶で地域活性化～毎日飲んでいい暮らし～』（一次予選通過）
栗原 駿樹 斉藤 涼馬 塚本 京香 矢嶋 海来
- ・『お茶の生産にA Iを』
石間 暖人 石川 晴斗 曾根 優花 伊藤 朱音
- ・『海と人をつなぐ ～水産資源で創る地域発展～』
藤田 一星 鍋田 健友 中田 守香 鈴木 春香
- ・『楽しもうハッピーティーライフ ―投資の観点から静岡の茶業の振興を一』
永井 泰誠 杉村 航大 櫻井 ひなた 松本 温奈
- ・『交通革命』（一次予選通過）
田中 爽馬 赤堀 悠里 藤永 翔也
- ・『自動車の未来で世界は変わる ～新たな技術革新へ～』
小原 健太 中山 将吾 松浦 優美花 村松 日向
- ・『浄水の可能性 ～with microorganisms～』
中嶋 祐貴 増田 大夢 森田 真菜
- ・『南海トラフ地震を想定して』（一次予選通過）
久坂 律 鈴木 康矢 黒木 綾人

エ 結果

応募	11チーム
一次予選通過	5チーム
入選チーム	2チーム
入賞チーム	なし

 <p>日経STOCKリーグ 投資家向けAI講座 投資家向けAI講座 投資家向けAI講座 投資家向けAI講座</p> <p>～私たちには多様な水資源をどのように使うべきなのか～</p> <p>～「AIは万能である、それ故危険な技術だ」という間違った考えが所々で見受けられました。そこで、我々はこの認識を正し、爆発的なブームも唸りを潜め出した今、投資家の皆様には 持続的、安定的な AI への投資を提案したいのです。</p> <p>さらなる AI の発展へ。そして、いつか来たる四度目の AI の夏へむけて。</p>	 <p>Water Of Our Life</p> <p>～私たちには多様な水資源をどのように使うべきなのか～</p> <p>～「AIは万能である、それ故危険な技術だ」という間違った考えが所々で見受けられました。そこで、我々はこの認識を正し、爆発的なブームも唸りを潜め出した今、投資家の皆様には 持続的、安定的な AI への投資を提案したいのです。</p>	 <p>楽しもうハッピーティーライフ</p> <p>～投資の観点から静岡の茶業の復興を～</p> <p>～「AIは万能である、それ故危険な技術だ」という間違った考えが所々で見受けられました。そこで、我々はこの認識を正し、爆発的なブームも唸りを潜め出した今、投資家の皆様には 持続的、安定的な AI への投資を提案したいのです。</p>
<p>○要旨</p> <p>我々が、VR、AR、ビッグデータ解析、IoT など先端的な技術革新が数多くある中、あえてこのAIという使い古されたテーマを選んだには理由があります。</p> <p>先に、“AI”を”使い古された”と表現しましたが、AIを”知能を有するよう振る舞う情報技術”と定義するなら、現在の技術では、この定義を網羅するに至りません。</p> <p>近年、“AIは万能である、それ故危険な技術だ”という間違った考えが所々で見受けられました。そこで、我々はこの認識を正し、爆発的なブームも唸りを潜め出した今、投資家の皆様には 持続的、安定的な AI への投資を提案したいのです。</p> <p>さらなる AI の発展へ。そして、いつか来たる四度目の AI の夏へむけて。</p>	<p>○要旨</p> <p>私たちが住む静岡県牧之原市は海に面しており、多くの水資源に恵まれている。このような資源を活用し、街をより活性化できないかと考えた。そこで、私たちはいくつかの視点を持って活動をすすめた。それは次の3つだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸には多くの漂流物があり、その中には多くのごみが混ざっていること ・海岸だけでなく港もあり、港内外を行き来する重要な玄関口となっていること ・水資源を用いた多くのヒビビジネスがあること <p>これらの視点から私たち班は、企業への投資を行った。“夢”と“希望”が詰まった私たちの“海”で地域がよりよくなるように。皆さんもこの資料を見て、水資源が持っている、生活に生かしていただきたいと思う。</p>	<p>○要旨</p> <p>今回、日経 STOCK リーグに参加するにあたり「お茶」という常套的なテーマを選んだのには理由がある。</p> <p>私たちが住む静岡県は国内有数のお茶の産地として知られており、特に榛原高校が位置している牧之原市は県下でもお茶の生産量が多いことで有名である。しかし、現在、静岡県の茶業において以下を始めとする問題が挙げられ、それらは年々深刻化している。生産量の減少、茶業従事者の高齢化及び後継者の不足、市場展開の不足—</p> <p>更に深刻化が進んで行けば、お茶と言えば静岡県—そんな決まりきったフレーズを耳にすることもなくなるかもしれない。</p> <p>だが、このような状況を少しでも改善するため、日経 STOCK リーグへ参加する高校生の私たちに投資の観点から何かできることがあるのではないかと考え仮想投資を行う際のテーマをお茶に決定した。</p> <p>いつか静岡県の茶業が振興することを願い、投資家の皆様へ静岡県の茶業の未来へと繋がる投資をご提案させていただきたい。</p>

(2) 主な活動

ア 企業訪問

 <p>矢崎部品ものづくりセンター</p>	<p>【令和2年11月16日（月）午前 矢崎部品ものづくりセンター訪問】</p> <p>矢崎部品ものづくりセンターにて、自動車部品の製造過程や企業の経営戦略、地域貢献の必要性などを学んだ。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、生産現場の見学等はできなかった。</p>
 <p>社会科教室にて（リモート）</p>	<p>【令和2年11月16日（月）午後 遠隔講義はごろもフーズ企業説明会】</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、Zooを利用した遠隔講義を実施。事業内容の説明に加え、企業の経営戦略などについて学んだ。財務内容など、株主総会でも利用する資料を実際に目にすることができ、貴重な経験をした。</p>

イ 金融・経済教室

 <p>社会科教室にて（リモート）</p>	<p>【令和2年11月2日（月）放課後 遠隔講義】</p> <p>野村ホールディングス コーポレート・シティズンシップ推進室の酒井賢一氏による講演を実施。</p> <p>今年はZoomを利用したリモートで、日経新聞の読み方や企業分析の手法（スクリーニング）、ポートフォリオなど株式投資についての基本的知識を学んだ。</p>
---	---

ウ その他（「地域探究学習について」講演）

 <p>社会科教室にて（リモート）</p>	<p>【令和2年10月19日（月）7時限 遠隔講義】</p> <p>「地域連携の必要性とキャリア教育について～地方自治体の視点から～」（島根大学教育学部中村准教授）新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、Zooを活用して実施。</p> <p>隠岐島前高校生徒の活動を、地方自治の観点から紹介していただいた。</p>
--	--

エ リモート学習の活用

 <p>Google Classroom の活用</p>	<p>【令和2年5月～3月】</p> <p>グルーワークを実施する際に、リモートで共同編集が可能な google Classroom を活用して作業を実施した。慣れない作業に加え、生徒間のPCスキルの格差が心配されたが、最終的には、得意な生徒が不得手な生徒に使い方を教え合うなどデータの共有などにも活用した。</p>
---	--

4-3 地域リーダー育成プロジェクト

(1) 学習の概要

牧之原市内にある県立相良高校と県立榛原高校の生徒たちが「学び合いの場」で大学生や大人たちとの対話を通して、将来地域を担うリーダーになることを目指して取り組んでいる（牧之原市事業）。

平成 27 年度から、静岡県立大学をはじめとする大学や地元企業、自治会など、地域の協力を得て、事業を展開している。

本校においては、地域協働学習実施支援員（牧之原市企画政策部地域振興課）と、地域連携推進監が牧之原市と協力して事業を推進している。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、活動内容が大きく制限されたが、年 6 回のプログラムが企画・立案され、実施された。

(2) 主な活動

ア 高校生と地域の育ち合いプログラム

 <p>ミルクィーウェイスクエア</p>	<p>【令和 2 年 9 月 26 日 第 1 回 市長の話を聞いてみよう】</p> <p>牧之原市内の高校生 34 人が参加。</p> <p>市長講話を聴き、自分の興味や関心を市の取組みと関連付けて考え、牧之原市への理解を深める全 6 回の取組の第 1 回。</p>
---	--

イ 第 2 回地域リーダー育成プロジェクト

 <p>さざんか</p>	<p>【令和 2 年 10 月 28 日（水） 第 2 回 考えたいテーマを決めよう】</p> <p>榛原高生 24 人が参加。相良高校の生徒と一緒に、SDGs に基づき、各グループで研究テーマを設定。</p> <p>第 3 回以降で、各グループの設定したテーマに沿った研究を協働的に実施。第 6 回（3 月 12 日）のプロジェクトで発表を行う（予定）。</p>
---	--

4-4 類型毎の趣旨に応じた取組

(1) 国内研修

ア 南九州研修

 <p>研修室にて</p>	<p>【令和2年12月23日(水)】 静岡～鹿児島</p> <p>ふじのくに茶の都ミュージアム(島田市)を訪問し、静岡県と南九州の茶の生産方法の違いや生産量について白井満副館長の講義を受講。</p> <p>ミュージアムを訪問した後、静岡空港から鹿児島、指宿まで移動して、砂蒸し風呂を体験するなど九州の自然を楽しんだ。</p>
 <p>「知覧茶」についての講話</p>  <p>岡本尚也理事長講話</p>	<p>【令和2年12月24日(木)】 南九州市～鹿児島市内</p> <p>研修のメインとなるこの日は、最初に平和学習として、知覧特攻平和会館を訪問し、同世代の特攻隊員の遺書を読むなど、平和の大切さに加え、自身のキャリア形成について考えた。</p> <p>南九州市茶業課生産振興の瀬川芳幸氏から、茶業に関して、静岡県牧之原市とのつながりや、南九州市における茶の生産について(知覧茶を中心として)講話を受けた。</p> <p>午後は、桜島に移動して、Glocal Academyの岡本尚也氏から、探究学習の進め方についてと、キャリア形成についての講義を受講した。</p> <p>研修終了後は、鹿児島市内を散策した。</p>
  <p>宮崎大宮高校の生徒と</p>	<p>【令和2年12月25日(金)】 鹿児島～宮崎(宮崎大宮高校との交流)</p> <p>WWL研究指定校の宮崎県立宮崎大宮高等学校文化情報科の1年生と、宮崎市内のフィールドリサーチを実施した。</p> <p>両校生徒が、テーマを共有し協働学習を行った。学習成果は、google Classroomを活用し、ポスターを製作した。</p>  <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響をうけ、1月初旬に実施を予定していた交流会は延期となった。</p>
 <p>高千穂峡にて</p>	<p>【令和2年12月26日(土)】 宮崎市～高千穂峡～鹿児島空港～静岡</p> <p>研修最終日は、歴史・文化研修として宮崎県北部の高千穂峡を散策した。</p> <p>天岩戸神社をはじめ、日本の歴史・文化に触れるとともに、高千穂峡の美しい自然に触れたのち、鹿児島空港から帰静した。</p>

 <p>出雲大社</p>	<p>【令和2年12月23日（水）】 静岡～島根</p> <p>静岡空港から島根県に移動。出雲大社、石見銀山を見学した。 出雲大社は、現地ガイドによる説明を受け、本殿を中心に参拝した。 石見銀山も現地ガイドの案内で、2グループに分かれて武家・町屋ゾーンなど散策し、清水谷製錬所跡、龍源寺間歩などを見学した。</p>
 <p>ワークショップ</p>  <p>中村先生講義</p>	<p>【令和2年12月24日（木）】 松江市内</p> <p>午前中はホテルから松江城、カラコロ工房などを班別研修し、午後の研修会場であるくにびきメッセに集合した。 くにびきメッセでは、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム（雲南市教育委員会の福島様、NPO法人カタリバの佐藤様）によるワークショップ（80分）、島根大学教職大学院准教授 中村怜詞先生による、グループ活動「人間知恵の輪」やリーダーに必要な資質とは何か等に関する講義（90分）を受講した。</p>
 <p>雪の鳥取砂丘</p>  <p>公立鳥取環境大学で</p>	<p>【令和2年12月25日（金）】 松江市～鳥取</p> <p>午前中は、鳥取砂丘を訪問した。この日は、偶然雪が降っており、静岡では見ることのない雪を見ることができた。 鳥取砂丘ビジターセンターでは、砂丘のでき方などについて学んだ。 午後は、公立鳥取環境大学を訪問し、環境学部教授・地域イノベーション研究センター長（兼務）吉永郁生先生の講義を受けた。 「地域の問題を解決するためにはどうしたらいいのか」をテーマにお話ししていただいた。 講義の後は、鳥取環境大学のキャンパスを見学した。</p>
 <p>どじょうすくい踊り体験</p>	<p>【令和2年12月26日（土）】 境港市、安来市他～静岡</p> <p>境港市の海とくらしの史料館や水木しげるロード、由志園他、地域の自然など様々な資源を活用した観光施設を見学した。 午後は、安来節保存会の方のご指導による「どじょうすくい踊り」を体験し、山陰地方の風習や文化について学んだのち、出雲空港から帰静した。</p>

(2) ESD (ESL) プログラム

ア イングリッシュ・キャンプ



教室にて

【令和2年8月10日（月）～12日（水）】

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人講師が来日できず、県内のALTの先生方を招いてキャンプが実施された。

また、感染防止のために、2・3年生と1年生が2つのグループに分かれて参加。

イ ベトナムとの交流事業



社会科教室にて

【令和2年10月21日（水）】

在ベトナム日本国大使館の協力により、ベトナムのハロン大学日本語学科の学生と生徒会の生徒がオンライン交流を実現。自己紹介のあと、榛原高校の紹介を行った。今後も定期的な交流を行い、将来的にはベトナム研修の際にハロン大学を訪問する予定。

ウ 中国語研修



社会科教室にて

【令和3年1月12日（火）】

静岡県地域外交局の協力で中国語研修を実施。1・2年生30人が参加。中国語独特のイントネーションに戸惑いながらも2時間の研修を終了。

台湾の学校とのリモート交流会を控え、中国語での自己紹介や挨拶の方法を学んだ。

(3) 部活動（グローバル部）

グローバル部では、地域リーダー育成プロジェクトと連携し、さらに発展的な学習として、以下の活動に参加した。また、各活動には中小企業家同友会の方々が協力して学習をすすめた。

ア 高校生による地方創生研究発表会（島田掛川信用金庫主催）【リモート発表】



オンラインでの発表

【令和3年2月6日（土）】

グローバル部6名が参加。コロナのため、当日は録画映像による参加。「私たちとHainanの未来～私たちが探究活動を通してきづいたこと～」をテーマに、榛南地域の更なる発展のために、自分たちに何ができるかを近隣の市や企業の活動、また御協力いただいたアンケートの結果を基に考えていく。

イ 全国高校生サミット（しずおか共育ネット主催）【リモート発表】



オンライン発表

【令和3年2月14日（日）】

グローバル部5名が参加。発表テーマは「食からつながるプロジェクト」。牧之原市の在日外国人、特に半数以上を占めるブラジル人の方々に焦点をあて、彼らが抱えるいくつかの問題のうち、ブラジル人の子供たちが日本の食事・給食が食べられないことをどう解決したら良いかを考えていった。

ウ 全国高校生マイプロジェクトアワード2020【リモート発表】



オンライン発表

【令和3年2月7日（日）】

グローバル部7名が参加。書類審査を経ての関東大会において、オンラインによる探究活動成果の発表。プロジェクト名は「好きだに榛高」Project。牧之原市の人口減少を食い止めるために、インスタグラムを用いて全国に牧之原の魅力を発信し、人々を牧之原市に引きつけようというもの。

(4) 学習成果の発信

ア Glocal High School Meetings 2021



発表者（2年生）



発表者（2年生）

【令和3年1月30日（土）進取館】

新型コロナウイルスの影響により、新設されたオンライン発表会に参加した。以下は、発表の要旨。

学校名：静岡県立榛原高等学校（1年）

発表タイトル：安全な水を～世界遺産を守ろう～

発表概要：私たちの住む静岡県は、富士山や三保の松原をはじめとする美しい景観に恵まれています。私たちが、榛原高校のグローバル事業で来年度訪問する予定のベトナムにも、富士山と同じく世界遺産として有名な「ハロン湾」があります。しかし、このハロン湾が最近深刻な水質汚染に悩んでいます。水質汚染の原因は、浄化できないほど汚染された生活雑排水が大量に海に排出されているからだといわれています。水質汚染を防止するには、下水道整備や大規模な浄化装置を建設することが必要ですが、これらを整備するには、時間とお金が必要で、簡単に解決することはできません。急速に経済発展が進むベトナムであっても、大規模な環境対策を行うことは難しいと思います。そこで、私たちは、昔から日本で利用されてきた水質を改善する技術について研究を行い、安価で環境にやさしく、そして、誰もが安心して使用できる技術を考案し、提案することを考えました。

Name of School: 静岡県立榛原高等学校（2年）

Title: Attractive Town Development

Abstract: In our city Makinohara, there are many attractions, such as the Shizunami coast, new libraries, airports and tea that is specially produced in our city. Nevertheless, we can't show these attractions to other people and other regions. So, in farming areas, the tea field has decreased because the people who produce tea are giving it up. In Makinohara city, the declining birthrate and aging population have been getting rapidly worse. The workers' population have been decreasing to. It leads to economic activity are not working well. If this situation gets worse, it will be more difficult to live and have children in Makinohara. As a result, the number of children will decrease more. So, we visited Shimane and Tottori prefectures to find solutions to these problems. Also, we researched how to attract to Makinohara people. By learning the work in other regions, we have an objective view to make a town for many people to live comfortably. We'll introduce our proposal

イ 台湾とのリモート交流

 <p>Zoomを活用した交流</p>  <p>英語による発表</p>	<p>【令和3年1月25日（月）】</p> <p>静岡県地域外交局（コンソーシアム）の協力を得て、台湾台中市立台中第一高級中等学校の高校生とのオンライン交流会を実施。</p> <p>両校の生徒がSDGsをテーマに両校の学習成果を報告した。台湾の高校生によるプレゼンテーションも実施され、ユーモアあふれる動画を楽しんだ。</p> <p>交流会の最後には、15HR 中嶋祐貴さんが「コロナ禍で外国人と会う機会が少ない現状でも、オンライン交流会で楽しみながら多くのことを学ぶことができた。」と中国語で台湾の高校生にお礼を述べる場面もありました。発表テーマは、1年生が「安全な水を～世界遺産を守ろう～」「鹿児島から学ぶ、これからの静岡茶」2年生は、「魅力的なまちづくり」「持続可能な学校と地域づくり」について発表を行った</p>
---	--

4-5 活動報告（生徒）

1 島根・鳥取研修参加者報告（抜粋）

『島根・鳥取研修に参加して』

25HR 池ヶ谷姫七

私は今回の研修を通して、地域の活性化をするためには、高校生が考えているだけではダメだということ学びました。

高校生だけでなく、小学生、中学生、社会人やお年寄りの方など、たくさんの地域の方々と交流し、その地域について知ることが大切だと分かりました。そして、地域のことを知ること、その地域のことを好きになり、自らが進んで魅力を発信したいと思える人が増えることが、地域を活性化するためのヒントだということが分かりました。

私は今まで地元に戻り就職したいと思うことがありませんでした。しかし、今回の講話を聞き、自分も地域の人たちと交流できる場所を作りたいと思うようになりました。「牧之原の人口減少を止める」という目標では大きすぎるため、住民一人ひとりの課題を考え、小さい課題を一つずつクリアしていくことが大切なんだということが分かりました。

今回の研修でお話しを伺った先生方は、みんなお話ししている内容がとても似ていると感じました。自分の好きなことを見つけ、幸せになれることをしたいと思うこと、大きすぎる目標では達成できないため身近な人の希望や不満を聞くことなど地域活性化だけでなく、自分の将来のために活かせることをたくさん学びました。私は今回の研修を通して自分の地域を盛り上げることや仕事に興味を持つことができました。もっと自分の地域や仕事について調べてみようと思いました。

私は2日目の研修の日、とてもドキドキしていました。

研修2日目は大学の先生や雲南市役所の方などの講話を聞き、自分たちの考えを深める時間として設定されていました。自分の意見を他の人と共有することができるだろうか、自分たちの目標である町を活性化させるために何かアイデアを出すことができるだろうかなど、沢山の不安が頭によぎりました。でも、そんな不安は、講義中に一瞬でなくなりました。普段手を挙げて発表することが苦手な私でも手を挙げて意見を書いたり、恥ずかしがらずに堂々と質問をできたりなど、普段の自分では考えられない行動でした。

このような場を作ってくれたのは講話してくれた先生のおかげで私はとてもすごいなと感じました。それと同時に、このような人達のようにになりたいと思うようになりました。

私は4日間の研修を通して、島根・鳥取にしかないものや伝統について知ることができたのはもちろんのこと、自分自身の成長を強く実感できました。

『私たち世代でも、変えることができるんだ』

一年生の時の総合学習で、私の住んでいる地域ではないところの問題を聞いたとき、こんなにたくさん問題を抱えているのだということに気がつきました。そこから学習を重ねて、一つのポスターにまとめた考えは、一度は市長さんのところに発表しに行く予定でしたが、コロナのせいで中止になり、直接私たちの言葉で伝える機会がなくなり残念に思っていました。

そして今年、この研修でグローバル事業に参加することになり、ここなら高校生の意見をしっかり発表できることをとても嬉しく思っています。

事前研修では、他の地域の高校生の行ったことについて話しを伺って「あ、私たち世代でもこんなに影響を与えて変えることができるんだ」ということを知りました。私たちが牧之原市にもたらすことのできる変化について知るために、同じ状況にあった島根鳥取に行きました。市内の観光や教授のお話を聞くことで、牧之原市との違いや人気のある秘密が少し発見できました。

私たちの地域との差は、年齢など関係なく地域について考え話す場があり、大人たちのような助成金も受け取ることができたり、私たちの世代の声が届くような仕組みが整っていたりするところでした。生徒が自ら行動し、身の回りの大人たちに呼びかけて、地域の問題を解決しようとしていました。

大学の教授から「授業で地域の問題について考える機会があるのはとても良い」という言葉をいただきました。しかし、その先が問題なのだと私たちは思いました。策を考えても、実行する力のある大人に伝わっていないのです。そのことが解決できないと、良い策が思い浮かんでもどうしようもないことに気がつきました。

私たちは、まず大人たちに考えたことを知ってもらう場を作ることが大切だと思いました。これからの活動全体で「牧之原市らしい視点」を持ちながらより良い地域と学校のために考えていきたいです。そして、考えたらすぐに他の人に伝えることも忘れずにしたいです。

今回の島根鳥取研修で学んだことは、これから人が生活をしていくうえで身につける力のこと、これから生きるうえでの在り方や価値について学びました。人々が生活していくうえで身につけたいことは、リーダー性をつけるためにたくさんチャレンジすることです。チャレンジすることで大切なことは、自分から興味・関心・疑問を持って積極的に取り組むことです。なぜなら、まず自分の興味・関心・疑問があるテーマではないと自分から動くことはせず、他人からやらされている感じがして、やる気がしません。学校の総合の時間も、先生が決めたテーマでやらされている人がほとんどだと思います。

このことから、少しでも自分で興味を持って牧之原市、あるいは自分の住んでいる地域のことに自主的に行動していくことが大切だと思いました。この力は大人になって仕事を探すときや、仕事に就いた時にも積極的に行動することで、仕事も楽しくなってきた、自分の人生に価値を持たせることができると思うからです。

『自分たちのアイデアを伝えていきたい』

私たちは昨年から牧之原市を活性化させるためにはどうすれば良いのかについて考えてきました。榛高タイムという総合的な学習の時間では、グループごとテーマを決め、牧之原市の課題解決に向けてポスター発表を行いました。

今回私たちは、昨年の学習を踏まえ、牧之原市を活性化するために高校生にできることがまだまだたくさんあるのではないかと思います、この研修に参加しました。まず事前研修として、隠岐島前高校での取り組みについてお話を伺いました。隠岐島前高校では生徒がツアーを計画したり、地域のお祭りを主体的に行ったり、牧之原市でも応用できる取り組みを多く行っていました。その後、少子高齢化や過疎化など共通点の多い島根鳥取を実際に訪れました。雲南市の取り組みや鳥取環境大学のお話を聞き、私たちは考えているだけで回りの大人に発信できていないことに気が付きました。私たちが周りの大人に発信していくことで、それが実現し、できることも増え、牧之原市の活性化につながると思いました。だからこれからは、自分たちのアイデアをもっと周りに積極的に伝えていきたいと思います。

2 南九州研修参加者

『南九州研修に参加して』

15HR 塚本京香

南九州研修では貴重な体験をさせていただき、たくさんのことを学ぶことが出来ました。

1日目はふじのくに茶の都ミュージアムに行き、鹿児島に到着してから砂風呂に入りました。

ふじのくに茶の都ミュージアムでは日本茶の消費と流通について話してくださいました。お茶には荒茶、仕上げ茶という2つの指標があることや、お茶に出す金額が昔から変わっていないことなどたくさんを学びました。健康志向になり、全世代で茶系飲料の消費量が増えていることに驚きました。たくさんの人にお茶を飲んでもらえるよう、お茶の良い効果などを広めていきたいなと思いました。砂風呂では普段できない体験をする事ができました。

2日目は特攻平和会館、知覧文化会館、桜島に行き、知覧茶、探究学習について講話を聞きました。特攻平和会館では沖縄戦の特攻作戦で戦死した隊員の当時の姿、遺品などを見ました。戦死のむなしさ、平和の大切さ、ありがたさ、命の尊さなどたくさんを感じました。私たちが戦争のない平和な日常を過ごすこと、明日が当たり前に来る事がどんなに幸せな事なのか改めて感じました。一日一日を大切に、何事にも一生懸命取り組んでいきたいなと思います。

知覧文化会館では知覧茶について学びました。今まで知らなかった茶の複雑さなど知ることが出来ました。鹿児島県は茶の生産量を増やすために色々工夫しているという事が分かりました。探究学習についての講演では、とてもためになる話を聞く事ができました。自分の意見を持ち、言うことが大切という事などとても印象に残っています。私たちに大事な事を伝えたいという熱い気持ちが伝わる講話でした。探究学習で聞いた話をこれからは生かしていきたいなと思いました。

3日目は宮崎大宮高校のみなさんと市内研修をしました。宮崎の事をたくさん教えてもらいました。宮崎大宮高校のみなさんは自分の住んでいる町をわかりやすく紹介できてすごいなと思いました。私は自分の住んでいる町についてうまく紹介が出来ないので、たくさんを知り、自分の住んでいる町の魅力を伝えていきたいなと思いました。

4日目は高千穂峡の散策をしました。空気がとてもきれいでした。自然の良さを感じる事が出来ました。自然を大切にしていきたいなと思いました。

この研修を通じて身近なことを知ることが大切だと思いました。自分がわかっていると思っていることでも知らない事がたくさんありました。いろいろな人から話を聞く事が大切だと改めて感じました。この研修で普段できない体験や、学校での勉強では学べないことをたくさん学ぶことができ、とても良い経験になりました。南九州研修の経験を生かして、これからの学校生活を送りたいです。

自分は大井川という茶とは関係が薄い町で生活していて、茶について全く興味が無く、茶については“静岡では茶が沢山栽培されているんだなあ”程度の知識しか無かった。

だが、茶の都ミュージアムで茶についての展示を見たり副館長さんのお話を聴いたりして僕たちの通う榛原高等学校がある牧之原及び静岡は茶の栽培がとても盛んであり、牧之原・静岡の歴史は茶と共に歩んできたと言っても過言ではないということや現在静岡は茶の生産量及び加工量も日本一であるということを知り、茶の都ミュージアムの『茶の都』という名にふさわしい地域だなと思った。

しかし、鹿児島県の知覧の方のお話を聴き牧之原・静岡の茶について客観的な視点で考えてみると問題が次々と浮き彫りになってきた。

まず、静岡の荒茶生産高もう少しで鹿児島に抜かれてしまいそうだということだ。現在日本全体で農業従事者の減少が深刻で茶の生産高も強い影響を受けているが、鹿児島では茶の生産の機械化が進み農業従事者の減少によって受けている影響が少ないと言うことが分かった。

生産を機械化することが一概に良い事とはいえず機械化するには茶畑の改良、機械の購入費など多額のコストが必要となってくる。また茶農家さん達で『機械なんかに任せて美味しい茶ができる訳ない』という方も少なからずいらっしゃる。しかし鹿児島知覧茶の農林水産大臣賞の受賞数が静岡茶を遥かに上回っていることを知り静岡でも機械化すべきなのかなと思ってしまった。

次に、鹿児島では知覧茶のブランド化が成功しており、また他国への茶の輸出やこれからのグローバル社会の中で『日本の茶』を発信していくことについて静岡よりも意欲的で、『茶の都』である静岡も静岡茶を国内の一部の年齢層の人だけではなく、もっとたくさんの年齢層ましてや外国の方々に知って貰い、『Japanese tea』は魅力的だなと思ってもらえるようにしていく必要がある。

他県の茶の名産地の方々のお話を聴き、静岡の茶産業について客観的な視点で考える直すことにより今まで見つけることの出来なかった静岡の茶産業の問題点を見つけ、それについて僕たちはどうしていくべきかということについて考えることができました。

私は、グローバルアカデミーの岡本先生の講和を受ける事が出来て幸運であったと思います。何故なら、沢山の価値ある話を伺うことが出来たからです。3時間にも及ぶ講話でありながら、その内容の濃さから、一分で終わってしまったように感じました。

実際に講話を受けて感じたことの1つは、自らの幼さです。例えば、自身の論理的思考力の欠陥について、気付くことが出来ました。具体的には、自分のたてる論理が、自身の曖昧な記憶や感情に由来しており、事実即していない事がままある事です。意見を持って、それを発言することは重要ですが、事実を根拠としない意見は唯の妄言です。そして、そういった感覚的な議論が危険である事を、事例を挙げて説明してくださいました。例えば、COVID-19で話題になった九月入学は、計算してみると大量の待機児童を生むのだそうです。また、社会的な探求学習を行う際に知っておきたい事についても教えていただきました。例えば、課題とは理想と現実、現実と認識の間にある不一致の事であり、価値観や認識が変化することで課題も変わってくることを教えていただきました。物事を様々な面から見て課題を浮き彫りにするためにも、様々な価値観に触れることは重要だと思いました。また、Risk・Reality・Responsibilityは、「それが実現可能か(実現)、それをするとどんな損害があつて(危険)、それは許容可能か(責任)。」を端的に言った言い方で、これは課題にたいして打ち出した解決策の評価軸としてとても重要だと思いました。

『コミュニケーション能力の大切さ』

私は、大人になっていく上でコミュニケーション能力を身につけることが大切であると考えています。そして、その力を鍛える機会になると思い、この南九州研修に参加しました。

研修3日目には、宮崎県立宮崎大宮高等学校の生徒の方たちとの交流会を行いました。いくつかのグループに分かれ、大宮高校の生徒の方の案内のもと、宮崎市を散策しました。生徒の方はみなさんとてもフレンドリーで話しやすく、和やかな雰囲気を作ってくださいました。そして、多くの質問を交わし、宮崎市と牧之原市の違いや共通点について学ぶことができました。大宮高校の生徒の皆さんは、私たち榛原高校生との話す言葉のイントネーションの違いに驚いているようでした。また、私は宮崎市のバスの運行本数が少ないことに驚きました。宮崎市は駅があり、牧之原市とは違って交通の便が良いという印象があったからです。このように、その場に行ってみないと気づかないことや知れなかったことを学ぶことができました。他県の高校生との交流は、その地域の独自の文化や環境に触れることができ、とても貴重な体験になりました。

この研修を通して、大宮高校生だけでなく、地域の方との交流をすることもできました。また、違うクラスで関わりのなかった榛原高校生の友達とも仲良くなることかできました。私は、コミュニケーション能力を身につけるという目標を意識し、積極的に話すことができました。これからはこの研修が私の高校生活で役に立つように意識しながら、生活していきたいと思っています。

南九州研修報告書

～2020 年度榛原高校H A Fプロジェクト～



令和2年12月23日(水)～26日(土)

静岡県立榛原高等学校H A Fプロジェクト

① 自然体験

訪問先	ふじのくに茶の都ミュージアム	活動内容 茶道体験，静岡のお茶について
実施日時	2020年12月23日（水）午後 時 分から 時 分まで	

活動内容のまとめ

- ・ 静岡のお茶についての講話
(静岡県のお茶の生産量の現状について，お茶の消費の変化 など)
- ・ 茶道体験
- ・ 施設見学

感想（印象に残ったことほか）

”静岡はお茶が有名”ということばかりがおそらく静岡県民も含め多くの人に印象づいていて、県民である私自身もデータの具体的な課題や他県との比較、お茶に対する意識の変化などに目を向けたことがなかったもので、データで見ることはとても新鮮に感じた。

また、お茶を緑茶として飲む機会があっても、なかなか抹茶を飲ませていただく機会はないので、いい経験だったと思った。

学習成果をまとめよう

【お茶の課題】

- ・ 生産量が鹿児島県に抜かされてしまう。
(鹿児島県は機械化により静岡より断然高い作業効率でお夢愛を栽培している。)
- ・ お茶の値段（価値）低下
- ・ お茶農家の減少
- ・ 低価値の茶葉の取り引きの増加
(ペットボトルのお茶等に使われる茶葉は価格が低いためペットボトル茶の消費量の増加に伴いやすい茶葉の流通が増え生産額の減少につながっている。)
- ・ 消費の仕方の変化
(急須でお茶を入れる人が減り、ペットボトル茶での消費が増加)

②砂風呂体験

訪問先	砂蒸し会館 砂楽	活動内容	砂風呂体験
実施日時	2020年12月24日(木) 午前 時 分から 時 分まで(予定)		

講義内容のまとめ

- ・砂風呂体験
- ・温泉

感想(印象に残ったことほか)

まさか浴衣一枚で外に出るとは思はなかった。初めての砂風呂だったので、砂の上に寝転ぶことも砂の中に埋まることも初めての体験だった。最初は、砂に寝転ぶこと自体少し抵抗があったが、勇気を出してやってみたら非常に温かく終わった後もしばらくポカポカした状態続いて、個人的には通常の温泉よりも気持ちよかった。

私は、冷え性なので冬場の足は、特に冷えているが、砂風呂の後はホテルに着いてもあたたかく、短時間で健康になったことを実感した。静岡では、絶対にできない体験なのでとてもいい体験だったと思う。

学習成果をまとめよう

砂風呂は温泉熱(地熱)を利用するものである。指宿は砂風呂で有名なようで、今回体験させてもらったように指宿の砂風呂は観光体験として指宿の観光スポットの一つにもなっている。静岡(牧之原)に地熱はないが、自然を生かした

③ 平和学習

訪問先	特攻平和会館	活動内容 展示された資料から戦争の歴史を振り返る
実施日時	2020年12月23日(水) 午後 時 分から 時 分まで	

活動内容のまとめ

- ・特攻平和会館の見学
- ・会館周辺の探索

感想 (印象に残ったことほか)

日本がかつていくつもの戦争を行っていたことや敗戦の経験があることはもちろん知っていたが、戦争の資料館に足を運ぶのは、私は初めてだった。死ぬことが分かった上で戦闘機に乗る覚悟の強さ、家族へ残した手紙の最後の言葉に込められた家族への愛情・感謝が当時から80年以上経っているとは思えないほど生々しく残っていて考えさせられるものがあった。

学習成果をまとめよう

育った環境(時代)の違いもあるとは思いますが、今の自分には、隊員として死ぬ覚悟もその人たちを見送る覚悟もない。現在、私は16歳で、自分と同じ16歳の隊員はさすがにいなかったが、17、18歳からの隊員はたくさんいた。今までは戦争については、学校の授業で習った程度の関わりがなかった。そのため、正直、命を犠牲にして攻撃していたやり方は間違っていると思っていたし、「戦争に行っても一人前だ」という考え方もおかしいと思っていた。

しかし、資料を通して戦争の当事者一人ひとりに目を向けたことで、誰も死にたくないという気持ちがあったという当たり前のことを気づかされた。今でも戦争はあるべきではないと思っているが、戦争がない世の中のためには戦争が確かに存在したという歴史は現代を生きる私たち全員が必ず目を向けなければならないことだと思う。

④ 知覧茶文化研修

訪問先	知覧文化会館	御担当（講演者） 茶業課 瀬川さん
実施日時	2020年12月24日（木） 午前 時 分から 時 分まで（予定）	

研修内容

- ・ 鹿児島にお茶について
- ・ 質疑応答

感想（印象に残ったことほか）

校長先生から事前に聞いていたり、担当者の瀬川さんのお茶（知覧茶）への愛が強くあまりの熱量に圧倒されながらも、瀬川さん自身、鹿児島茶の発展の先駆けとなった静岡に感謝してくださっているよううれしく思った。瀬川さんが「生産量の一位、二位も大事かもしれませんが、日本のお茶が広まることを大切にしていきたい。」とおしゃっていた。これは、ふじのくに茶の都ミュージアムの副館長 白井さんも同じようにおしゃっていたことで、国内で生産量を争っているよりも、今お茶の需要が高まる世界への発信に取り組むべきということなのではないだろうか。

学習成果をまとめよう

【鹿児島のお茶】

- ・ 鹿児島県の茶産業の発展は静岡に研修にきたことから始まった。
- ・ 鹿児島県と静岡県茶産業の最大の違いは、機械化。

（収穫方法ひとつをとっても機械化による差は歴然であった。主な収穫方法の違いは茶畑そのもの作りにも違いをもたらしていた。静岡の茶畑は山間部の斜面に面しているところも多く機械での収穫は非常に困難であるが、鹿児島茶畑は平地に直線でお茶の木が植えられているため大型の収穫機の使用しやすくなっている。また、鹿児島の斜面では棚田のような”テラス式茶園”が採用されている。テラス式茶園では、農地面積の減少により収穫量も減少するが、機械により栽培・収穫効率が向上しているため成り立っている。）

⑤ 探究学習

訪問先	桜島	御担当（講演者） (岡本尚也) 様
実施日時	2020年12月24日（木）午前 時 分から 時 分まで（予定）	

講義内容のまとめ

《これからの社会と自分と向き合う力》

今までは、年功序列や終身雇用などその先の人生を保障するような先が見える時代だった。しかし、今は”先が見えない時代”。そこで必要なのが、自分と向き合う力。私たちは自分と向き合うことで自分のやりたいことや今の自分ができることが考えられるようになる。そして、自分自身の相対化にもつながるため自分はまだまだであると考えることもできる。

また、世界に視野を向けた時、必要とされる人はちゃんと自分の意見を持った人。だから、将来のために英語が大事というが、英語が話せる事よりも意見があることのほうが大事。どんなにつたない英語でも言おうとしていることは絶対に一生懸命汲み取ろうとしてくれる。また、周りから見て意見を言わないことと意見がないことは変わらない。つまり、意見があるのに言わないことはとてももったいないことなのである。

偶然を増やし、紡ぎ、そして必然に。

【探究活動に向けて】

- ・マジックワードを使わない。
- ・賛成、反対を先に決めてしまっってはいけない。
- ・知識をもっとつける。
グローバルよりボーダレスな挑戦をする。自分で視野を勝手に狭めない。
- ・価値観の違いより…何をもって理想として、何をもって課題とするかの境界線はとても難しい。

学習成果をまとめよう

岡本さん自身、私たちだけでなく、岡本さんの同世代の人よりもより多くの経験をしているのではないだろうか。

岡本さんが、「時代や環境によって人の価値観は全く異なる。」とおっしゃっていたが、岡本さんのあらゆる考え方そのものがたくさんある価値観の一つなんだと思う。今回の講演で触れた今まで私になかった考え方（価値観）はこれからの私の価値観を作り上げていく上で必ず何らかの影響を及ぼす。

こんな曖昧な表現をするとマジックワードになってしまうのかもしれないが、今はまだ本当に分からない。でも、私にとって新しいものであったの確かだ。新しい価値観に触れるわくわく感は、これからの探究活動や進路への大きなインセンティブになるだろうと思った。

⑥ 鹿児島市内研修

訪問先	鹿児島中央駅、アミュプラザ
実施日時	2020年12月24日(木) 午後 時 分から 時 分まで(予定)

研修の感想(一番印象に残ったところを報告)

ちょうど、クリスマスイヴと重なって、人通りもいつもより多かったようだ。
 駅前には盛大にイルミネーションで装飾されていてとてもきれいだった。牧之原に住んでいると、なかなか夜に都会でクリスマスイヴを過ごすこともないので楽しかった。
 ここでの研修は夕食を含む自由時間だったので、せっかくだから鹿児島で有名なものを食べたいねと皆で話していたのだが、時間が意外と無くなってしまったのと何を食べるか結構迷ってしまって結局のところ全く鹿児島とは関係のないグラタン&ドリアのお店に行った。今思えば、やはり鹿児島で食べる夕食にドリアはもったいなかったかなとも思うが、ドリアは思っていた以上に美味しく、何よりみんなで食事ができたことが楽しかったので満足だった。

学習成果をまとめよう

- ・お土産売り場はやはりまとまっているべき

さすが鹿児島中央駅というだけあって、観光客用にご当地ならではのお土産をまとめて売っているお店があり、さらにそれらのお店が集まった〇〇横丁みたいなブースがあった。私が観光客の立場になったとき、その地域に何が有名なのか、どんな商品があるのか、そのお店がそこにあるのか、などネットを使っても調べるのはとても大変だった。まとまって売ってくださっていることで、その場に居ながら賞品を比べたり、買い物が一度にまとまったり、といった多くの利点があった。静岡県規模ならばご当地のお土産はまとまって駅周辺に売っているかもしれないが、牧之原市には駅がないので、別にご当地商品を取り扱うお店が必要だと感じた。

しかし、そういったお店を作った際、観光客でない地元住民にはニーズがないのではないだろうか。牧之原市は、決して観光客が特別多いわけではない。だから、ただの「お土産屋さん」としてでは商売として成り立たないのだ。そこで、私は、地元民からも愛されるご当地ショップを設けることはできないだろうかと考えた。普段から地元民に多く利用されれば、観光客の増加だけでなく地元民の居場所にもなり、さらに、お茶を使ったメニューや商品を取り扱えば、お茶の消費の増加・若者のお茶の普及にもつながると考えた。

⑥ 宮崎自由研修

訪問先	宮崎県立宮崎大宮高校
実施日時	2020年12月25日(金) 午前 時 分から午後 時 分まで

研修の感想(一番印象に残ったところを報告)

(イッタバショ) キュウシュウパンケーキ, アミュプラザ, オカシノヒダカ

先生からは、大宮高校の生徒さんについて私たちよりずっと偏差値が上だと聞いていたのもっと怖いイメージを抱いていたが、私がグループで一緒になった女の子たちは優しく気さくでたくさん話しかけてくれた。短い時間だったが、宮崎の観光をすることができた。

真剣に観光ルートを考えてくれて、連絡先まで交換するほど仲良くなった。

観光ルートは当初考えていたものとすべて同じではなかったが、時間いっぱいまで存分に宮崎観光を楽しむことができた。

学習成果をまとめよう

大宮と牧之原を比較したとき、大宮の方が都市部であるという最大の違いは歴然だった。いったい何がその差を生み出しているのだろうか。それは、街を歩く人の多さ、車通りの多さ、道幅の広さ、店舗数の多さ、交通網の発達、といったところだろうか。その中でも交通網の発達が一番の影響を与えていると考えられる。交通網が発達することで必然的に、観光客は来やすくなり、バスやタクシーにより車通りも増える。人が集まる場所にはお店も集まるはずだから、店舗数が多いことも説明がいく。交通網の発達は、牧之原市の大きな課題でもある。しかし、交通網を発達させたところで、何を目的に行くのだろうかという問題になる。交通網が先に発達しても観光スポットがない、観光スポットを先に発達させても交通手段がない、というように、どちらを先に発達させるかは非常に難しいところである。

研修のコースを考えるにあたって、大宮の生徒さんが私たちに要望を聞いてくれた。私は、圧倒的に大宮周辺の観光地の知識が足りなかったので、「宮崎でしか食べられないもの見られないものを体験したい。」というなんともアバウトな要望になってしまった。しかし、そこで、観光客はやはりご当地性を求めているんだと確信した。人は、ご当地限定や期間限定といった「〇〇限定」に弱い。だから、牧之原市の観光客を増やすためには、牧之原市でしか食べられないものできない経験ができることが重要だと考えた。そのために、牧之原市に何があるだろうかということのを考えるのではなく、時には新たに牧之原市といえどという牧之原市の代名詞となるものを考えなければいけない。そういった、何らかの変革を起こさなければならない時なんだと思った。

また、一緒にルートを考える際、大宮高校の生徒さんたちの様子を拝見して「自主性」という言葉が浮かんだ。意見をいうことにためらっている人はいなかったし、各々が必要だと思ったことはすぐにタブレットを使って調べたり先生に聞きに行ったりと、大宮高校の生徒さんは驚いた。あの自主性は、榛高生に不足している部分だと痛感した。大宮高校の生徒さんがあそこまの行動力にできるのは、慣れもあるかもしれないが一番は場の雰囲気だと思う。私自身、大宮高校の生徒さんに混じり周りがどんどん意見をいう場において発言のしやすさは身をもって実感した。いい意味でその場の雰囲気にのまれるというか、そういう場の力はおそらくみんなが思っている以上に大きいのだと思う。どんなにインターネットの設備が整っていても、施設が新しくても、道具がそろっていても、その雰囲気づくりができなければ意味がない。逆に言えば、どんなに田舎で都会には叶わない部分があっても、その雰囲気さえあれば大きく変わるかもしれないということである。同世代との交流はとて面白い刺激になった。

⑦ 歴史・文化研修

訪問先	高千穂峡	
実施日時	2020年12月26日(土) 午前 時 分から 時 分まで(予定)	

感想(印象に残ったことほか)

私は高千穂峡に来た。

峡と付くところも初めてで、周りは山なのに谷というなんとも不思議な感覚だった。流れる川や削られた岩、壮大な自然を全身で感じた。私は美術部なので直接自分の目で見る自然はとても参考になった。これからの作品に活かしたいと思い、写真もたくさん撮ってしまった。

私もよくマイペースと言われるが、一緒に行動した子たちもたぶんマイペースで、みんなからはおいて行かれてしまいました。結局、最後まで一応たどり着けたみたいだが、ゆっくりする暇もなく引き返して来ることとなった。

本当は、3時間のコースだったらしく、1時間で回るのはさすがに無理があるなと思った。一番きつかったのは帰り道で、急階段の上らなければならなかった。

自然の上に作られているので、階段は一段一段幅も違えば高さも違った。あんなに帰り道がしんどいとは思わなかった。きっと谷だから気温が他の所より低くなっているのだろう。はじめは上着を着ていてもひんやりしていたのが、帰りの階段を登りきってバスに着くころには持久走の後くらいに息が切れて暑くなっていた。とてつもなくハードだったがいい体験だった。

学習成果をまとめよう

4 卒業生

(1) 定時制課程との交流

Hannah Billones (定時制課程 フィリピン出身 進学先 関西外国語大学)

My name is Hannah Billones, and I am currently a 4th-year student at Haibara High School night class. Even though I am in night class, I have experienced studying and doing activities with the day school students. These experiences helped me to achieve my goal and find a good university.

When I was in my 3rd-year high school, I entered an English club named “Glocal Club” with my fellow night school foreign schoolmates. Our ESL teacher managed it, Ms. Frances Lockett. The club’s primary goal is to allow Japanese students to practice their English speaking ability with us. And in exchange, we international students must communicate with them in Japanese and learn the language. We did many communication games, all learned in English, and got to know each other. I believe that it became a pleasant experience for me and also for those who joined the club. It made us more open to different cultures, and we learned a foreign language in a fun way. In my last year of high school, I challenged myself to take EIKEN pre-1. During the first level of the examination, Ms. Lockett helped me to pass the test. It was more challenging than I expected, especially the writing section. I luckily passed the first test and later moved to the second one. On the second examination, the speaking test, I asked for the help of Mr. Yamaguchi, and he nicely accepted it. In our practice, there were also day school students who passed the first test. We practiced in pairs, and we exchanged our opinions together regarding the passage that we have read. I used what I have learned in EIKEN and applied it to my university entrance exam studies. Luckily, I have passed. After high school graduation, I will go to Osaka and study at Kansai Gaidai University to further my studies. I want to expand my knowledge of foreign studies- and hope to make friends with students from other countries too.

(2) 全日制課程

鈴木 愛美 (全日制課程 女子バスケットボール部 進学先 関西学院大学)

私は1年生の時に台湾研修、2年生の時にアメリカ研修に参加しました。2つの海外研修を通して国際社会について改めて考えさせられ、自分の視野を広げることができました。これらの経験から、将来は国際的に活躍できる外交官のような職業に就きたいと思うようになりました。進路先でもいろいろなことに挑戦し、次のステップへ繋がられるよう努力していきたいです。

岩ヶ谷 佳那 (全日制課程 グローカル部 進学先 獨協大学)

私は高校2年生の夏にアメリカ研修に参加し、その体験を元に全国高校生国際フォーラムに参加しました。貴重な体験をできたことで、海外や日本国内のことをもっと知りたいという気持ちになりました。この経験があったので大学進学にも繋がり将来の視野が広がりました。

西谷 紫音（全日制課程 グローカル部 進学先 大妻女子大学）

私は、高校1年生の12月に台湾研修に参加しました。その経験を活かして、全国高校生国際フォーラムでの発表を行いました。発表の準備から当日の発表、そしてフォーラム後の活動まで、普通の高校生活では経験できないことをさせていただき、私が将来を考えるきっかけに繋がりました。

原崎 ひかる（全日制課程 演劇部 進学先 明治学院大学）

私は台湾研修とアメリカ研修に参加しました。研修を通して台湾とアメリカ、そして日本の文化の違いを実感することができ、「外国の文化や歴史を学び異文化理解に貢献したい」という自分の目標を見つけることができました。また、全国高校生フォーラムにて二つの研修の成果をポスターセッションというかたちで発表した際は、自分の英語力の低さを実感するとともに、もっと力をつけたいとその後の学習意欲につなげることができました。

研修の目的の一つであるお茶については、地元の特産物でありながら知らなかったことが多く、新たな発見をすることができました。これらの経験を活かして、これからも異文化と自文化について理解を深め、日本と外国の相互理解に貢献していきたいです。

井鍋 沙也花（全日制課程 アーチェリー部 進学先 愛知教育大学）

国内研修では、地域の企業に訪問し、静岡と世界をつなぐ企業の方からお話を伺いました。“お茶”を媒介にして日本の文化を発信し続ける人や、私たちの生活をより快適に、より自由になるよう技術を繋ぐ人たちのお話を通して、自分たちの思い描く将来の選択肢が何倍にも広がっていったような気がしました。

海外研修では、実際に海外で働く日本人の方のお話を聞きました。赴任されてからの私たちの想像をはるかに超えるような苦労や努力、そしてそれを上回るやりがいなど海外で働くということがどんなことなのかを教えてくださいました。国籍も考え方も関係なく、人とかがわり合いことで世界が出来上がっているということを確認しました。

また、誰しもが名前を聞いたことのあるような企業にも訪問しました。その規模に、世界の大きさを感じました。さらに、自分たちで計画を立て、街を歩き、そこで暮らす人々の姿や文化なども感じることができ、日本とは違う大胆さや活気があり、すべてに惹かれました。外国へのあこがれがより一層強くなったように思います。

この研修の中で、様々な考えを持った人との出会いがありました。何よりも自分自身で感じ触れることでより深い学びができたように思います。現在、国内外での移動が制限され、このような研修が行われず残念に感じています。新型コロナウイルスがいち早く収束し、より多くの人に学びの場が与えられることを願っています。